



# まんだらげ

vol. 2  
2007.9



華岡青洲の業績をたたえる施設「青洲の里」に咲くまんだらげ。夏に咲くこの花は、青洲が独自に開発した麻酔薬の主成分となりました。

写真協力/財団法人青洲の里

## 患者さまの権利

- 1 個人として尊重され、質の高い医療を受ける権利**  
個人の人格が尊重され、年齢、性別、信条、障害の有無などにかかわらず、必要かつ十分な医療を平等に受ける権利があります。
- 2 医療について十分な説明を受ける権利**  
ご自身が受ける処置・手術や検査等について、十分な説明を受ける権利があります。また、他の医療機関の医師の意見（セカンド・オピニオン）を求める権利があります。
- 3 自身が受ける医療を自ら決定する権利**  
納得できるまで説明を受けたのち、ご自身が受ける医療について意見を表明し、自らの意思に基づいて決定する権利があります。
- 4 医療について情報提供を受ける権利**  
自分の病気や受けている医療について知ることができるとともに、カルテ等の開示を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーが守られる権利**  
医療に関する個人情報やプライバシーは厳正に保護される権利があります。

## CONTENTS

- 新任教授紹介
- 診療科紹介／消化器内科・救急集中治療部
- クローズアップ／  
前立線がん腹腔鏡手術・総合周産期母子医療センター
- 栄養ワンポイントアドバイス
- お薬の豆知識／保管の仕方

### 広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の学章にも採用されています。

## 理念

私達は患者さま本位で、質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

## 基本方針

- 1 患者さまとの信頼関係を大切にし、安全で心のもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 地域の中核病院として、和歌山の保健医療を推進します。

## 新任教授紹介

### 眼科教授 雑賀 司珠也

和歌山県立医科大学を卒業し、生まれも育ちも和歌山市です。県医人に勤務して今年で20年目。患者さんをはじめ周囲の人、仕事、すべてにおいて「誠実」を信条にしています。眼科は外来患者数が年間4500件を超えるもっとも多い診療科で、白内障をはじめ網膜症、緑内障など眼の病気全般に対し、最先端の手術装置や顕微鏡、レーザーなどを新たに導入し、最高の医療を提供しています。また、遺伝子治療の研究にも取り組み県民医療の推進に尽力を注いでいます。



### 泌尿器科教授 原 勲

就任してきたのは今年の5月からです。専門は泌尿器科悪性腫瘍学です。泌尿器科悪性腫瘍は特に近年増加傾向にある前立腺癌や腎癌、膀胱癌、精巣癌など多岐にわたっており、しかもそれぞれに対する治療戦略が大きく異なります。これら悪性腫瘍に対し腹腔鏡手術を含む手術療法の確立に取り組んでまいりました。こうした基盤を基に泌尿器悪性腫瘍に対する集学的、全人的医療を展開していく所存です。



## 診療科紹介

### 【消化器内科】

はしょうしゃくじゅつ

## 肝ラジオ波焼灼術・ 胃大腸内視鏡治療はトップレベル

消化器内科は食道、胃、十二指腸、大腸、小腸、肝臓、胆道、すい臓など、多くの消化器疾患を対象とし、一瀬雅夫教授を中心に18名の精鋭部隊が治療にあたっています。食道・胃や大腸の粘膜内のできる早期がんねんまくかそうはくりじゅつに対して、内視鏡治療ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)を近畿圏で最も早く導入し、全国ではトップクラスのレベルを誇っています。また、胃がんリスクの高い個人を血液検査で同定し、早期発見に結びつける

システムの研究は、他施設の追随を許さないところでは、肝がんの治療には超音波で腫瘍を見ながら針を刺して熱凝固で治療を行う体への負担が少ない最先端のラジオ波焼灼術を行っています。治療数は全国12位(2006年)、5年生存率は全国1位(2007年肝癌研究会発表)の実績を誇り、全国の医療機関からその高い技術力が評価されています。



### 【救急集中治療部】

## 院内外からの重症患者を 24時間体制で受け入れ



内科・外科系を問わずあらゆる重症患者を24時間体制で受け入れ、医師24人、研修医8人、看護師96人が各診療科の支援も得て万全の体制で治療にあたっています。平成元年に高度集中治療センターが開設され、平成10年に救急部門が加わり、救急

集中治療部となりました。平成12年には救急救命センターとして認可され、15年にはドクターヘリを導入。現在、月間外来平均1300人、ドクターヘリの年間出動回数約350回。「ドクターヘリを導入しているのは全国でも10カ所ほど。医師と看護師が速やかに救急現場に直行し、高度な医療機関へと搬送する間、救急治療を行えるので、重症救急患者の救命率の向上と後遺障害の軽減につながっています」と篠崎正博教授。ドクターヘリの運航範囲は和歌山県全域と奈良県南部、三重県南部を運航。山間部の多い地域だけにその活躍が期待されています。また、地震や火災などによる自然災害や事故災害などに対する災害医療訓練を実施し、医療体制を強化しています。



# ぐるーずあっが

## 県医大で開始、前立腺がんの新式手術 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術

日本で急増しているがんのひとつ「前立腺がん」。男性特有の疾患で、高齢化や食生活の欧米化（動物性脂肪の摂取率の増加）などが増加の背景にあります。内分泌療法、手術療法、放射線療法、待機療法が主な治療法です。今年7月、和歌山県立医科大学附属病院で初めて、前立腺がんの新式手術「腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術」が行われました。

この手術は、腹部に直径5mm～1cm程度の穴を5か所開け、その穴に管を挿入します。その一つに腹腔鏡を入れ、先端についているビデオカメラで患部をモニターで写し出しながら、残りの4つの管

### 前立腺がんの治療

- |                                    |                       |
|------------------------------------|-----------------------|
| 1.内分泌療法(ホルモン療法)                    | 3.放射線療法<br>外照射<br>内照射 |
| 2.手術療法<br>開腹前立腺全摘除術<br>腹腔鏡下前立腺全摘除術 | 4.待機療法                |

に電気メスなどの器具を入れて前立腺を摘出します。

「この手術はがんが他の臓器に転移していない早期に有効です。開腹手術に比べて、傷が小さく、術後の回復も早く、入院期間も短縮されます」と、泌尿器科の原勲教授。今年5月に神戸大学から赴任してきた原教授は、同大学で腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術総数160例以上を手掛けてきた経験豊かな腹腔鏡技術認定医です。患者さんにとってはこれまでの治療に加えて選択肢が広がります。

## 産科と小児科が24時間体制で連携する総合周産期母子医療センター

平成16年、総合周産期母子医療センターに選定され、翌年、産科部門の改修工事を行い、母胎児集中治療室が設置されました。ハイリスクの妊婦や胎児、異常が現れた新生児の治療を同じ病棟で、産科と小児科が連携し24時間体制で集中治療にあたる県内唯一のセンターです。母子センターとしての機能が充実しており、急変にも迅速にかつ総合的に対応できる医療体制が整っています。

救急医療の側面では、他の医療機関で発生した緊急帝王切開の分娩立会にも医師と看護師が院外に出向きます。新生児専用の救急車には保育器、人工呼吸器、モニター等が装備され、処置をしながら搬

送できます。さらに和歌山県全域の医療施設との間で母体と新生児双方の患者搬送を行うために、平成15年からドクターヘリを備えています。



外来患者さんを対象にバースプランのアドバイスや両親学級の開講など、子育てのサポートにも積極的に取り組み、また感染症などをテーマに中学や高校で性教育の出張講座も行っています。



## 栄養ワンポイントアドバイス【病態栄養治療部】

### 塩分が少なくても おいしく味わえる煮魚料理法



カレイも玉ネギや青ネギの甘味を引き出して煮込めば、醤油や砂糖が少なくてもおいしく味わえます

醤油と砂糖でじっくり煮込まれた魚はおいしくて、ごはんがすすみます。しかし減塩をしなければならぬ人にとっては煮魚も物足りない味に…。そこで塩分を控えてもおいし

く味わえる煮魚料理のコツをアドバイスします。塩分を控える(醤油の分量を少なく)には、砂糖の分量を控えること。入れすぎないことが大切です。玉ネギやネギなどの甘味のある野菜と一緒に煮付け、野菜の甘味をそこなわないような醤油加減とし、ゆっくり弱火で煮詰めることがポイントです。

一度砂糖を使わない魚の煮付けを試してみませんか。  
[一人前]カレイ1切れ(80g)、玉ネギ1かけ(10g)、ネギ1本(10g)濃い口しょう油小さじ1強(7g)、酒小さじ1(5g)、だし汁大きじ2(30g)

受講無料  
お気軽にご参加下さい。

## お知らせ

平成19年度生涯研修・地域医療支援センター研修会  
「最新の医療カンファランス」

場所 - 和歌山県立医科大学  
生涯研修・地域医療支援センター研修室  
(図書館棟3階)

日時 - 第2木曜(8月を除く)午後3時～午後5時

「明日を生き抜く医療知識と実践・ここまで進んだ病気の診断と治療」をテーマに、専門医がそれぞれの疾患について、よりわかりやすく、詳しく説明します。

10月11日(木)「第5回 がん診断の最前線」

○早期癌の画像診断と放射線治療の最近の動向について  
講師・医大・放射線医学教授 佐藤守男

○診断・治療に役立つ医療放射線と、その安全性  
講師・医大・中央放射線部主任 西奥忠純

11月8日(木)「第6回 神経内科の病気」

○神経内科医がめざすパーキンソン病の治療

講師・医大・神経内科准教授 三輪英人

○認知症の診断と治療

講師・医大・神経内科講師 紀平為子

## お薬の豆知識



シリーズ②「薬の保管の仕方」

～薬剤部から～

薬の保管の基本は、①湿気(風呂場)、高温(車内)、光(窓際)を避けて缶に入れ、乾燥剤も入れる②子供の手が届かないところ③飲み方が表記されているので薬袋から出さない、遮光、防湿等の加工包装なので、パッケージから出さない ※冷所(15度以下)＝液剤(食品と間違えないように)、坐薬(体温で溶ける)、点眼剤(有効期限注意)、インスリン(凍らせないよう注意、ペン型は冷蔵庫に入れると結露により故障の原因になるので室温)



## 募集

和歌山県立医科大学 看護師、助産師募集

### ■募集期間

第2回 平成19年8月15日(水)～平成19年10月1日(月)消印有効

### ■試験日

第2回採用試験＝平成19年10月13日(土) 会場＝和歌山市

### ■採用試験等のお問い合わせ

医科大学事務局総務課 TEL 073-447-2300(内線5711)

採用の案内は本学ホームページにも掲載しています

<http://www.wakayama-med.ac.jp/oshirase/kangobosyu.html>



子供たちの笑顔が  
輝くよみきかせ

院内で絵本のよみきかせを行っているのが、阪上佳子さん。元小学校教諭、障害児教育で活躍されていた阪上さんは、愛情たっぷりに、本の登場人物になりきって、子供たちに語りかけます。「探求心や好奇心いっぱい目で見聞き入ってくれる子供の笑顔が大好きです。絵本の魅力を多くの子供たちに伝えたい」と話します。



院内の3階には小児外来があり阪上さんのよみきかせは毎週火曜9時～11時半

## 会計呼び出しが番号制になりました

これまで総合受付会計窓口(8番窓口)や支払窓口(9～12番窓口)、院外処方方の窓口では、患者さまをお名前と呼んでいましたが、プライバシー保護の観点から番号発券機・番号表示板等を導入し、番号でお呼びすることになりました。新システムの導入により一時待ち時間が長くなったりする場合がありますがご協力をお願いします。



## 和歌山県立医科大学附属病院広報誌 まんだらげ〈vol.2〉

2007年9月発行

発行／和歌山県立医科大学附属病院

〒641-8510 和歌山市紀三井寺811-1

TEL 073-447-2300

【ホームページアドレス】

<http://www.wakayama-med.ac.jp/hospital>

※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。

### 外来受付時間

・受付時間 午前8時50分～午前11時30分

・再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)

・休診日/土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)

### 電話予約センター

受付時間 月～金 午前8:30～午後4:00

【祝日・年末年始(12月29日～1月3日)を除く】

TEL 073-441-0489

電話をしていただく時間帯により、回線が大変こみ合うことがあり、ご迷惑をおかけするかもしれませんが、ご了承ください。

次号発行は  
12月1日です。